

平成 17 年度 社団法人日本動物学会事業報告書

1. 学術集会の開催

日本動物学会第 76 回大会
つくば国際会議場（つくば市）
10 月 6 日-8 日
参加者数 1099 名 演題数（ポスター） 647 題
シンポジウム 18 テーマ

市民交流会「動物学ひろば」
動物学ひろば公開講演会「身近な動物のふしぎ」
動物学ひろば展示発表
高校生によるポスター発表 19 校 23 題
学会全体の公開

2. 全国 7 支部による支部大会およびシンポジウムの開催

第 57 回動物学会関東支部大会
日時：3 月 20 日（土）15：10 より
場所：横浜市立大学 シーガルホール
参加者数：157 名（学生 93 名，一般 64 名）
ポスター発表演題数：59 題
特別講演：
「魚の目から見た東京湾の自然再生」
工藤孝浩（神奈川県水産総合研究所）

第 57 回動物学会中国四国支部大会（生物系三学会中国四国支部大会として開催）

日時：5 月 21 日（土）・22 日（日）
場所：岡山大学 創立五十周年記念館および理学部 1 号館
参加者数：306 名
（学生 98 名，一般 100 名，シンポジスト 4 名，高校生等 52 名，一般（シンポジウムのみ） 52 名）
演題数：口演 22 題，ポスター 29 題
公開シンポジウム：
「外来生物による生物多様性の危機」
1. 「外来生物問題：環境誌と生態学の視点から」
鷺谷いづみ（東京大学大学院農学生命科学研究科）
2. 「外来生物：問題の考え方とつきあいの心得」
中井克樹（滋賀県立琵琶湖博物館）
3. 「岡山の外来植物」
榎本 敬（岡山大学資源生物科学研究所）

4. 「岡山の外来動物」

森 生枝 (岡山県自然保護センター)

(社) 日本動物学会近畿支部 2005 年度発表会

日時：5月28日(土) 13:30より

場所：大阪大学 大学教育実践センター共通教育講義棟 B307号室

参加者数：63名

演題数：10題

「中脳神経冠細胞の軟骨細胞への分化制御機構」

中西浩一, 伊藤一男 (阪大, 院理, 生物)

「ルリキンバエの脳間部, 脳側方部に存在する神経ペプチドの探索」

井ノ崎葵・沼田英治・志賀向子 (大阪市大・院理・生物地球)

「クロオオアリの攻撃行動におけるオクトパミンの効果とオクトパミン受容体の cDNA クローニング」

海田幸江・桑原大樹・山岡亮平・尾崎まみこ

(京都工芸繊維大学・繊維学部・応用生物学科・化学生態学研究室)

「TaiwanG23 において特徴的にみられる絶食時間に依る甘味および苦味感受性の上昇」

岡本はるか・伊藤雅信・高橋 文¹・高野敏行¹

・山岡亮平・尾崎まみこ (京都工芸繊維大学

・繊維学部・応用生物学科・化学生態学研究室,

国立遺伝学研究所¹ 総合研究大学院大学・集団遺伝研究部門・研究室)

「ゾウリムシの集団培養系における K⁺ 刺激による後退遊泳運動の変化」

三浦満美子, 春本晃江, 高木由臣 (奈良女子大学・理学部・生物科学)

「モルフォチョウの構造色と鱗粉構造」

木下修一, 吉岡伸也, 神戸 亮 (阪大・生命機能)

「内分泌攪乱化学物質に曝露したオスヒメダカ (*Oryzias latipes*) における Vitellogenin の局在」

小林佳代, 保 智己, 大石 正 (奈良女子大学・院人間文化・生物環境)

「円口類ヤツメウナギの網膜における神経節細胞の形態と分布」

前田真矢子, 川野絵美, 大石 正, 保 智己 (奈良女子大学・院人間文化・生物環境)

「メダカ桿体・錐体における Gβγ・フォスフェーシオン細胞内分布の比較」

山本慎太郎¹, 久富 修¹, 徳永史生^{1,2} (1 阪大・院理, 2 CREST (JST))

「ナメクジウオメラノプシン：無脊椎動物感桿型光受容細胞と脊椎動物の網膜光感受性神経細胞の進化的関係」

寺北明久^{1,2}, 小柳光正^{1,2,3}, 窪川かおる⁴,

塚本寿夫^{1,2}, 七田芳則^{1,2} (1 京大・院理・生物物理,

2 CREST・JST, 3 現所属：阪大・院理, 4 東大・海洋研)

日本動物学会九州支部・福岡例会

日時：6月25日（土）14：00より

場所：福岡大学理学部会議室
（福岡大学9号館2階）

参加者数：33名

演題数：2題

講演：

「興奮性のチャネルおよびトランスポータの分子機能」
上原 明（福岡大学医学部生理学教室）

「ミツバチの振動コミュニケーションの脳内神経機構」
藍 浩之・伊藤綱男（福岡大学理学部地球圏科学科）

鹿児島例会

日時：7月9日（土）13：30より

場所：鹿児島大学理学部

参加者数：29名

演題数：1題

講演：

「藍色細菌における概日発現リズムの DNA アレイを用いた網羅的解析」
九町健一（鹿児島大学理学部生命科学科）

動物学会関東支部公開講演会

日時：7月23日（土）14：00より

場所：東京大学理学部2号館大講堂

参加者数：233名

演題数：3題

「魚の起源：フナ（鮒）とキンギョ（金魚）はどこからきたのか — DNA からのアプローチ—」

村上 賢（麻布大学獣医学部）

「鳥類の進化をその起源にさかのぼる—ハトから想いを馳せる鳥類進化—」

真鍋 真（国立科学博物館）

「最古の人類祖先をもとめて—最近の人類化石の研究現場から—」

諏訪 元（東京大学総合研究博物館）

日本動物学会中部支部大会

日時：7月29日（土）・30日（日）

場所：石川県女性センター

参加者数：71名

演題数：18題（一般講演14題，ポスター発表4題）

特別講演：

29日「バイオサイエンスと社会：研究成果とマネー」

白楽ロックビル（お茶の水女子大学）， 加藤和人（京都大学），

平野武嗣（金沢大学）、佐藤 努（金沢大学）、永井 裕子（日本動物学会）
30日「太平洋と日本海の生物多様性」

後藤太一郎（三重大学）、山崎裕治（富山大学）、小北智之（福井県立大学）、
神谷隆弘（金沢大学）

日本動物学会九州支部単独例会・福岡市動物園講演見学会

日時：7月30日（日）13：30より

場所：福岡市動物園

参加者数：25名

演題数：2題

講演：

「ツシヤママネコを中心とした希少動物の保護と管理の取り組み」「動植物園再生構
想」

倉成武裕（福岡市動物園長）

平成17年度 日本動物学会東北支部大会

日時：2005年7月30日（土）9時30分より

場所：弘前大学農学生命科学部203講義室

参加人数：40名

演題数：21題

1. ヒト不動性および奇形精子の染色体異常：マウス卵子への顕微授精による解析
渡邊誠二（弘前大・医・解剖第二）
2. ヨコスジカジカ二型精子形成の制御機構に関する研究
早川洋一1・古川園枝2・高山-渡辺絵理子3
・渡辺明彦2・小林牧人1・宗原弘幸4・鬼武一夫2
（1国際基督教大・教養・生物，2山形大・理・生物，3山形短大，4北大・FSG・
白尻臨海）
3. アホウドリ類における分子的性判定法
長井和哉1・川上和人2・黒尾正樹1・小原良孝1
（1弘前大・農学生命・生物機能，2森林総研・多摩森林科学園）
4. 電気化学イメージング法を応用したメダカ卵の呼吸量測定
阿部宏之1・高山-渡辺絵理子2・鬼武一夫2
・渡辺明彦2（1東北大・先進医工，2山形大・理・生物）
5. 走査型電気化学顕微鏡を用いたマウス卵子の呼吸量測定
佐々木隆広・横尾正樹・阿部宏之（東北大・先進医工）
6. レクチンを用いた *Xenopus* 卵ジェリー層構成成分の輸卵管における分泌様式
に関する研究
岡村洋子・渡辺明彦・鬼武一夫（山形大・理・生物）
7. タマクラゲの卵成熟機構の解析
竹田典代1・経塚啓一郎2（1東北大・院生命，2東北大・院生命・浅虫）
8. イトマキヒトデ初期ビピンナリア幼生の体長増大と体腔囊の関係
倉石 立（東北大・院生命・浅虫）

9. マナマコ管足骨片サイズと体長の相関について
吉田 渉・大中臣哲也・石田幸子 (弘前大・農学生命・生物機能)
10. ナツドマリヒラムシ胚における **PiFoxF** の発現と筋細胞の分化に関する研究
森川正喜・石橋 崇・吉田 渉・石田幸子 (弘前大・農学生命・生物機能)
11. 四肢再生芽細胞形成過程におけるマウス **Prx1** 肢芽エンハンサーの活性
鈴木 誠 (東北大・院生命)
12. ニワトリ肢芽先端部における進行帯様領域の存在と **HoxA11/A13** 発現の同調性
佐藤耕世 (東北大学・院生命)
13. 甲状腺機能低下症マウスにおける神経前駆細胞増殖能は **T3** 投与により回復する
内田克哉¹・米沢昌子²・中村創一郎³・小林哲也²
・井樋慶一¹・町田武生² (1 東北大院・情報科学, 2 埼玉大・理, 3 筑波大院・人間科学)
14. **Paramecium tetraurelia** における大核交換移植を用いた加齢の研究
遊佐怜子・中村裕希恵・見上一幸 (宮教大・環境教育実践研究センター)
15. ゾウリムシ大核中に見つかった極端なヘテロゲノム構成と小核ゲノムの解析
西山学即¹・見上一幸²・落合威彦¹・山内清志³
(1 福島医大・医・生物, 2 宮教大・環境教育実践研究センター, 3 静岡大・理・生物地球環境科学)
16. 無脊椎動物(棘皮動物と原索動物)の体壁のマイクロファイブリル層
大澤得二 (岩手医大・歯・口腔解剖第一)
17. 網膜色素上皮細胞による桿体細胞外節の貪食に関与するリガンドの探索
泉 謙道・石黒誠一 (弘前大・農学生命・応用生命工学)
18. 網膜色素上皮による視細胞外節の貪食に必須な遺伝子 **Mertk** の発現解析
田沼 亮¹・浅野 梢¹・泉 謙道²・石黒誠一²
・山本博章¹ (1 東北大・院生命・生命機能科学, 2 弘前大・農学生命・応用生命工学)
19. **BDF1** マウスより樹立した可移植性白血病細胞株の特性
大谷和彦・畠山幸紀 (弘前大・農学生命・応用生命工学)
20. 環形動物エラコの実験動物としての可能性
中野 剛・出口竜作 (宮教大・理科教育)
21. ショウジョウバエのフラクタル行動における記憶効果
小金澤雅之¹・早川美德²・嶋田一郎¹
(1 東北大・院生命科学・生命機能科学, 2 東北大・院理・物理)

平成 17 年度科学研究費補助金研究成果公開発表 (B) 補助事業

公開シンポジウム:

「親子で楽しむ動物学 7 津軽の海・山・川の動物たち: 見てみよう, さわってみよう身近な動物たち」

日時: 2005 年 7 月 31 日 (日) 13 時より

場所: 弘前大学

参加者数：82名

講演：

「小さな命の誕生 ウニの発生」

経塚啓一郎助教授（東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学研究センター）

「動物たちの不思議発見」

山内 智氏（青森県立郷土館）

実習：「ホタテの解剖」 経塚啓一郎助教授

実習：「土壌動物の観察」 山内 智氏

展示品内容 ツキノワグマ，タヌキ，ホンドキツネ，ニホンザル，ノウサギ，カモシカ，白神山地の昆虫標本，他 山内 智氏

日本動物学会北海道支部第51回大会

日時：2005年8月20日（土）

場所：北海道大学大学院理学研究科5号館大講堂

参加者数：135名

一般講演演題数：16題

特別講演演題数：2題

特別講演演題：

「神経系はなぜ束なのか？-神経系の基本構造に関する情報論的考察」

下澤楯夫（北大・電子研・神経情報）

「転写調節機構の研究と、その応用」

山崎健一（北大・地環研究院）

中国四国支部共催事業：山口大学図書館セミナー2005

主催者：山口大学図書館

日時：9月15日（日）

場所：山口大学学生会館

参加者数：200人

講演：

「日本の学術コミュニケーションの現状」

安達 淳（国立情報学研究所）

「SPARC/JAPAN の活動」

細川聖二（国立情報学研究所）

「UniBio Press の活動」

永井裕子（日本動物学会）

「山口大学の現状と課題」

大場高志（山口大学）

中国四国支部後援事業：山口大学理学部サイエンスワールド7th

主催者：山口大学理学部

日時：11月6日（日）

場所：カリエンテ山口

参加者数：600人

(社) 日本動物学会近畿支部 公開講演会

「進化発生学の挑戦：非モデル動物をどう扱うか」

日時：2005年11月19日（土）13:00～16:00

場所：理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター C棟6階セミナー室

参加者数：27人

プログラム：

「プラナリアと付き合い14年：非モデル動物を実験ベースに載せるまでの私のストラテジー」

阿形清和氏（京都大学大学院理学研究科）

「比較形態学と進化発生学の相克：環形動物と節足動物の間の溝」

丹羽 尚氏（理化学研究所）

「形態進化を理解するための実験遺伝発生学についての方法論的考察：キシタバ類の紋様をどう扱うか」

山口素臣氏（理化学研究所）

「脊椎動物 EvoDevo 最後のフロンティア：メクラウナギ発生学はいかに実現できるのか」

太田欽也氏（理化学研究所）

(社) 日本動物学会近畿支部 学術情報講演会

「大学における学術情報の今後」

日時：2005年12月6日（火）16:30～18:00

場所：奈良女子大学文学部 S218室

講演題目：

「学術情報のオープンアクセスについて」

永井裕子氏（日本動物学会事務局長，NII・SPARC 推進室員，
科学技術・学術審議会学術情報作業部会委員）

「奈良女子大学と機関リポジトリ」

的場輝佳氏（奈良女子大学図書館長）

学術情報講習会参加者数：15名

(社) 日本動物学会近畿支部 協賛シンポジウム

第9回 紀伊半島シンポジウム

「生物多様性と外来種」

日時：2005年12月10日（土）13:00～17:30

場所：奈良女子大学 記念館

参加者数：110名

基調講演：

『「生物多様性が減る」とはどういう問題なのか?』

中静 透 (総合地球環境学研究所)

第1部 近畿からの報告

『世界遺産春日山原始林の多様性と外来種』

前迫ゆり (奈良佐保短大), 名波 哲 (大阪市立大・院・理), 神崎 護 (京大・院・熱農)

『近畿における在来, 外来, 雑種タンポポの分布状況』

伊東 明 (大阪市立大・理)

『DNA 分析からみる奈良県の淡水魚の現状』

北川忠生 (近大・農)

『和歌山県のタイワンザル問題』

鳥居春己 (奈良教育大)

第2部 外来種問題をどう考えるか

『外来種 (ブラックバス) 問題の現状および経緯と背景』

淀 太我 (三重大・生物資源)

『外来種問題を通して見た日本の生物多様性危機』

五箇公一 (国立環境研)

第6回 青森県高等学校理数科課題研究発表会

弘前大学 小原良孝, 石田幸子, 石黒誠一の3名の会員がオブザーバーとして参加

2005年12月10日(土) 10:50より

参加生徒数: 29名

演題数: 7題

1. ヒトの感覚について

(五所川原高等学校) 研究生徒7人

2. 身近な食材を用いた DNA の抽出

(八戸北高等学校) 研究生徒3人

3. 脳波と学習曲線の関係について

(三本木高等学校) 研究生徒5人

4. 赤石川に生息するカゲロウ類

(五所川原高等学校) 研究生徒3人

5. 細胞融合と組織培養

(八戸北高等学校) 研究生徒4人

6. 植物の気孔に与える環境の影響

(三本木高等学校) 研究生徒5人

7. 小さな空き地の四季

(八戸北高等学校) 研究生徒2人

3. 動物学の普及活動

4. 学会誌・図書の刊行

Zoological Science 22巻1号-22巻12号

生物科学ニュース 397号-408号

5. 動物学研究業績の表彰と研究奨励

動物学会賞

倉谷 滋 (理化学研究所)

「脊椎動物の、主として頭部形成に関わる進化発生学的研究」

小林 悟 (基礎生物学研究所)

「ショウジョウバエにおける生殖細胞形成機構の解明」

松井正文 (京都大学大学院)

「両生類の多様性、自然史および保全に関する研究」

奨励賞

日下部岳広 (兵庫県立大学大学院)

「ホヤにおける遺伝子発現制御と遺伝子進化に関する研究」

田中幹子 (東京工業大学大学院)

「脊椎動物に四肢を獲得させたボディプランへのアプローチ」

第4回「日本動物学会 女性研究者奨励 OM 賞」

寺崎朝子 (千葉大学大学院)

「無脊椎動物の *lasp family* タンパク質の機能解析」

杉浦真由美 (奈良女子大学大学院)

「原生動物繊毛虫ブレファリズマにおける有性生殖開始機構の解明」

江上基金 (若手研究者国際会議出席費用補助金) 受賞者

塚田岳大 (東京大学海洋研究所)

“Brain target sites for the antidipsogenic effect of atrial natriuretic peptide (ANP) in eels” に参加

杉本 薫 (東京大学大学院)

“The role of cell cycle regulator XBTg2 in *Xenopus* neural development” に参加

論文賞

(1) Takeshi Inoue, Hiroshi Kumamoto, Keiji Okamoto, Yoshihiko Umesono, Masaki Sakai, Alejandro Sa ´ nchez Alvarado and Kiyokazu Agata (2004)
Morphological and Functional Recovery of the Planarian Photosensing System during Head Regeneration. *Zool. Sci.* 21 (3) : 275-283.

(2) Tomohiro Umezu and Yasuhiro Tomooka (2004)
An evidence of stromal cell populations functionally linked with epithelial cell populations in the mouse oviduct. *Zool. Sci.* 21 (3) : 319-326.

(3) Kobayashi, Y., Kobayashi, T., Nakamura, M., Sunobe, T., Morrey, C. E., Suzuki, N, Nagahama, Y. (2004)
Characterization of two types of cytochrome P450aromatase in the serial-sex changing gobiid fish, *Trimma okinawae*. *Zool. Sci.* 21 (4) : 417-425.

(4) Tadashi Akiyama (2004)
Entrainment of the circatidal swimming activity rhythm in the cumacean *Dimorphostylis asiatica* (Crustacea) to 12.5-hour hydrostatic pressure cycles. *Zool. Sci.* 21 (1) : 29-38.

安増基金授与者 2名

池田英樹, 砂長 毅

6. 研究及び調査 (各委員会関係ほか)

- 1) 動物学資料保存に関する調査 (資料保存委員会)
Zootree データベースの作成
- 2) 将来の動物学の在り方に関する調査 (動物学将来計画委員会)
- 3) ガイアリスト 21 計画の推進 (ガイアリスト 21 委員会)
- 4) 生物教育用語の検討 (学術用語集改訂委員会)
- 5) 実験動物取り扱いに関する指針の検討
- 6) 研究用動物提供プロジェクト

7. SPARC/JAPAN 事業への参画

平成 17 年度決算報告書につきまして

掲載されています「会計書類」をご参照ください。故川口四郎会員からのご寄付 1 千万円と、学術誌データベース等の科研費補助金により、収入は増加しております。その他の収入は、ほぼ予算通りとなっております。故川口四郎会員からのご寄付は、「貸借対照表」の中の「特定目的資金」に入っておりますのをご確認ください。この特定目的資金は、「基金の目的とする事業活動以外には使用できない」ものであり、使用にあたりましては、理事会、評議員会の審議を経る形を取ります。雑収入には、著作権収入の他、本会が参画しております SPARC/JAPAN から、「電子投稿査読システム導入」のために雇用した事務局職員の給与として、補助された 180 万円が含まれております。

支出をご覧ください。上記でご説明いたしました、寄附金、科研費、給与等は、支出され、(故川口先生のご寄付は基金へ) 余剰金として残りました金額は、年を繰り越した「科研費の残余金」となっております。給与手当をご覧ください。この予算超過金額は、SPARC からの補助をそのまま給与として支払を行った結果であります。また、消費税納税に伴い、「公租公課」という項目を立て、消費税、法人税の支払いも行いました。従いまして、本会は好調な収入に支えられて、それを事業活動に回し、より一層活発な活動を行っているというのが平成 17 年度の決算状況となっております。